



學白集

比叢

一二

中村俊定文庫

文庫 18

1024

1





孝白集

一



孝白集

孝白集

孝白集

孝白集



長嘯子歌集





御幸白集卷第一

春哥

春の川うらな成

春の川あふ板山のさくらももさくし春のさくら  
さくらを屋もと法人出る日さくらのももさくらももさくら

春の川うらな成

春の川あふ板山のさくらももさくし春のさくら  
さくらを屋もと法人出る日さくらのももさくらももさくら  
官元永十一年あれーうらな成



春の川あふ板山のさくらももさくし春のさくら

あれー十一年

春の川あふ板山のさくらももさくし春のさくら

春の川あふ板山のさくらももさくし春のさくら

あれー十一年

春の川あふ板山のさくらももさくし春のさくら

あれー十一年

春の川あふ板山のさくらももさくし春のさくら



四月廿海より波のしけにんれあひあひと  
多ふしけととれ様うひけいと来る存  
寛永十一年おひし

一東の山福元れ善のふはあふりよ  
おひし十二

年内之春

おひしと善れもとを  
おひしと善れもとを  
おひしと善れもとを  
おひしと善れもとを

おひしと善れもとを

正保元年

おひしと善れもとを  
おひしと善れもとを

文安元年

おひしと善れもとを  
おひしと善れもとを

おひしと善れもとを



寛永十六年

是よりしてまゝにぬらしたる愛の心は  
ひんがしにふかしたる心なり

新ちるにありはくはるにねむるに  
ふかしたる心はちかたき心なり

おちしなせり

あまの心は遠くはるかに  
ふかしたる心はちかたき心なり

こころすはるにちかたき心なり  
おちしなせり

おちしなせり

さゆの心はれもあはれすけはる  
あまの心は遠くはるかに

あまの心は遠くはるかに

あまの心は遠くはるかに

ひらきよはるの心はちかたき心なり  
あまの心は遠くはるかに

立春

あまの心は遠くはるかに  
あまの心は遠くはるかに

あまの心は遠くはるかに  
あまの心は遠くはるかに

朝立春



冬の暮去よさわり安妙に枕の心と朝をむらん  
初立春

やうらなぬふれひりいづもあはれ暮初と夜をむらん  
河立春

ととにけしきさつらつと波はあはれ暮初と夜をむらん  
右不立春とと

春ともしよふより老も路にけあはれ暮初と夜をむらん  
初春

ほのよちれいふなむさう初めらむ暮初と夜をむらん  
暮れらむ初つとあはれ暮初と夜をむらん

これら

い湯くなれけなまあーえとらむ暮初と夜をむらん  
小初春

こころれおののふささのふおととあはれ暮初と夜をむらん  
小家初春

ふあまた秋ふれ春さぬむと梅とさねあはれ暮初と夜をむらん  
暮初と夜をむらん

早春

うちねる波やなほ初はなれ暮初と夜をむらん  
けさくあはれ暮初と夜をむらん



早春夜

春の夜やうきをばらけたりや油燈の火をたけけりよ  
寛永十九年三月廿二日公軌より月夜を居てし  
やよきとてふりておちりてさるる夜

うらまじきお花もお花たき衣巻よふらふりてお花をさるる  
うらまじきお花もお花たき衣巻よふらふりてお花をさるる

子口

いづらの子日れ山根花よふらふりてお花をさるる  
お花よふらふりてお花をさるる  
日終り付地にてお花をさるる

三日のよきよりしる入ぬん存そのころ暮れけり

道

いそいでお花の風斗にちるお花よふらふりてお花をさるる  
お花よふらふりてお花をさるる  
お花よふらふりてお花をさるる

春のよき

お花よふらふりてお花をさるる

若菜

うらまじきお花もお花たき衣巻よふらふりてお花をさるる  
うらまじきお花もお花たき衣巻よふらふりてお花をさるる



春しつこの中よ

ふれつもさる白梅に純らん雪のつし春日の系  
すさよとの系れ雪の下みとけらうにさよとや着あせだ  
春やとさ着あやとされしつれおしつよよすのははら

梅

梅の雪に世の地ろくたあいならうにさよとや着あせだ  
しつらつとさる白梅に純らん雪のつし春日の系  
すさよとの系れ雪の下みとけらうにさよとや着あせだ  
春やとさ着あやとされしつれおしつよよすのははら  
梅の雪に世の地ろくたあいならうにさよとや着あせだ  
しつらつとさる白梅に純らん雪のつし春日の系  
すさよとの系れ雪の下みとけらうにさよとや着あせだ  
春やとさ着あやとされしつれおしつよよすのははら

夜梅

梅夜露

白ひたは父しつとさる梅と我地るはらとさる  
人と結あさるたつとも梅は梅の板戸もつれせん

春しつこの中よ

いねくの梅し白ひたは父しつとさる梅と我地るはらとさる  
春しつこの中よ  
梅の雪に世の地ろくたあいならうにさよとや着あせだ  
しつらつとさる白梅に純らん雪のつし春日の系  
すさよとの系れ雪の下みとけらうにさよとや着あせだ  
春やとさ着あやとされしつれおしつよよすのははら

野着草



子すのよひれは袖やれきんふちむれてあつせ  
おちな成ちれ若か袖もつむし女子たあさけし  
雲中若菜

われつものくあもきぬ〜よなまちえら名物の袖

残雪

雪はしうちらぬあ〜雪と〜雪の雪の雪

木残雪

あ〜雪と〜雪の雪の雪の雪の雪の雪

雪の雪の雪

あ〜雪と〜雪の雪の雪の雪の雪の雪

雪の雪の雪

秋夜の梅はさう〜雪の雪の雪の雪の雪の雪  
の〜雪と〜雪の雪の雪の雪の雪の雪  
さ〜雪と〜雪の雪の雪の雪の雪の雪

正保二の三月十日小指とよ〜雪の雪の雪

られ〜七首の中よ〜雪の雪の雪

長宗ちう〜雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪

系刺す〜雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪

雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪

雪の雪



まはるしほの日はまはるしほの朝か  
ひまのひまのひまのひまのひま  
ひまのひまのひまのひまのひまのひま  
ひまのひまのひまのひまのひまのひま  
ひまのひまのひまのひまのひまのひま

夕霧

霧のまはるしほの日はまはるしほの朝か  
ひまのひまのひまのひまのひまのひま

深中霧

霧のまはるしほの日はまはるしほの朝か  
ひまのひまのひまのひまのひまのひま  
霧のまはるしほの日はまはるしほの朝か  
ひまのひまのひまのひまのひまのひま

雨申霧

霧のまはるしほの日はまはるしほの朝か  
ひまのひまのひまのひまのひまのひま  
霧のまはるしほの日はまはるしほの朝か  
ひまのひまのひまのひまのひまのひま

香申霧

霧のまはるしほの日はまはるしほの朝か  
ひまのひまのひまのひまのひまのひま

四霧中寫

霧のまはるしほの日はまはるしほの朝か  
ひまのひまのひまのひまのひまのひま  
霧のまはるしほの日はまはるしほの朝か  
ひまのひまのひまのひまのひまのひま



おるーいふ

あはれけり下なる人なれはさしづめ  
難波よりけり人の心はさしづめ

今やうーいふ文の林枝は昔よりさしづめ  
うち例はぬらん人の心

さかればる地うけは昔よりさしづめ  
昔のーいの中よ

ちるさなる心うけは昔よりさしづめ  
もいふ

けはのえはるーい昔は  
梅の袖のさしづめ

梅のそれ月のやにぬるる天はし女の袖のさす  
めよきとすわさしづめいーい袖うけーい斗白の梅  
たよきとすわさしづめいーい袖うけーい斗白の梅  
月もさしづめさしづめ梅のさしづめ人の昔とさしづめ

云軒川次の念もさしづめ梅始開と云こと成

梅さしづめいひの外さしづめとさしづめさしづめさしづめ  
さしづめさしづめさしづめさしづめさしづめさしづめ  
昔よのたさしづめさしづめさしづめさしづめさしづめ

父梅

夕討日うけさしづめさしづめさしづめさしづめさしづめ







之後、秋はけりあはれりて合せしとき  
庭前梅と

そは花元とてもさけひしりすまの衣は梅え  
衣まきと多夢也なりと云ふ花は神の庭の梅え

梅は

神は梅えきりれ如しの梅は袖さたしを梅え

梅薫は

衣しりおとらしく白ふたつて月一梅は下を

梅香は袖

梅はよと吹くとあすは梅したまふ袖を可也

あはれはつらもさうて梅は袖のさうせ

東梅遠薫

今これ梅はさうはるるるるるるるるるる

里はすしは梅はさうはるるるるるるるるるる

東山より人いふは梅はさうはるるるるるる

梅を薫

もすもよ梅はさうはるるるるるるるるるる

も月十日あまりあはれあはれと軒しり

もあやえを白おは梅はさうはるるるるるる

お中梅











道はす

春の風はさかしく吹く  
春の雨はあつちやうと  
春の日はあつちやうと

春の

春の風はさかしく吹く  
春の雨はあつちやうと  
春の日はあつちやうと

春の

春の風はさかしく吹く  
春の雨はあつちやうと  
春の日はあつちやうと

春の風はさかしく吹く  
春の雨はあつちやうと  
春の日はあつちやうと

春の風はさかしく吹く

春の雨はあつちやうと

春の日はあつちやうと

雨後春の

雨後の春はあつちやうと

春月

春月の日はあつちやうと

春月の雨はあつちやうと

春月の風はさかしく吹く



春のこころを

新波のあけぬれをいかに東よとせむ春は  
これいとおもつと月たとも春のあけぬれは

夏海春月

あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ  
あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ

春曙

あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ  
あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ

春曉

あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ  
あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ

海鳥

あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ  
あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ  
あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ  
あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ  
あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ

春のこころを

あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ  
あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ  
あけぬれのあけぬれはあけぬれのあけぬれ



あはれなる

くろ扇袖のあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
寛永十七の二月十八日見樹院立輪のあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

雲雀

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる  
あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

三保三の三月十八日

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなる

あはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなるあはれなる

終録



雲のちるる根とてたけりしはしむいよあそくを以て

待花

言妙の尾の雲たけぬるはあれもつるはあぬはら

待花

さあやねいよあそくを以てたけりしはしむいよあそくを以て

雲のちるる根とてたけりしはしむいよあそくを以て

言妙の尾の雲たけぬるはあれもつるはあぬはら

さあやねいよあそくを以てたけりしはしむいよあそくを以て

雲のちるる根とてたけりしはしむいよあそくを以て

待花

さあやねいよあそくを以てたけりしはしむいよあそくを以て

待花

雲のちるる根とてたけりしはしむいよあそくを以て

待花

言妙の尾の雲たけぬるはあれもつるはあぬはら

さあやねいよあそくを以てたけりしはしむいよあそくを以て

九條坊政房道房云たけぬるはあれもつるはあぬはら

待花

雲のちるる根とてたけりしはしむいよあそくを以て

待花



物と人の心はつた物だつて  
う川しうてふよじり愛りて  
あふ人ぬしとてあつて  
もわよ物とてあつて  
物と人

物と人

つれとてまら比言愛りてあつて

物と人

物と人の心はつた物だつて

物と人

物と人の心はつた物だつて

物と人の心はつた物だつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて

物と人

物と人の心はつた物だつて

物と人

物と人の心はつた物だつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて



よきねはあつらひのふりてふにまぢかきてふりてふりてふりて

小花末遍

まよふもほほせね人のふりてふりてふりてふりて

盛花

待もせすおしとらるゝとてふりてふりてふりて

歌大岡

一花よふふりてふりてふりて

あふとちりけの梅は吹くつゆりてふりてふりて

月の比東はよふふりてふりてふりてふりて

ちうれと急のふりてふりてふりてふりて

秋もく老せぬ人な梅花あつらひとらるゝ

あしししとてふりてふりてふりてふりて

まぢかき梅はつらふりてふりてふりて

ふ梅もあつらひぬ人な梅はつらふりて

あつらひとてふりてふりてふりてふりて

あつらひとてふりてふりてふりてふりて

あつらひとてふりてふりてふりてふりて

あつらひとてふりてふりてふりてふりて

あつらひとてふりてふりてふりてふりて











心略大綱云 實題 の下

先んて教多行てなる家の文は極るも

一

はてしなく文とては家の文は極るも

妙善院の

一枝とせばは家の文は極るも

おれ一人家の文は極るも

おれ一人家の文は極るも

おれ一人家の文は極るも

あ

おれ一人家の文は極るも

冷泉為景の文は極るも

一

おれ一人家の文は極るも

極

おれ一人家の文は極るも

おれ一人家の文は極るも

一

おれ一人家の文は極るも

おれ一人家の文は極るも



まふせよあつたしむの心夜はくつとふらふら  
ちうへつれきさうのぬいふらふらまふまふまふはく  
ふ極あつたふらふらたてゆへにふらふらふらふら  
あつたしむの心もまふまふはくはくはくはくはく  
松あつたまふまふはくはくはくはくはくはくはく

詠花

つらふらふらまふまふの心あつたふらふらふら  
まふまふまふまふの心あつたふらふらふら  
とつたふらふらまふまふの心あつたふらふら  
れぬらふらふらまふまふの心あつたふらふら

冷泉為景物ト云レ云レ云レ云レ云レ云レ云レ

ふ極あつたふらふらまふまふの心あつたふらふら  
まふまふまふまふの心あつたふらふら

まふまふまふまふの心あつたふらふら  
まふまふまふまふの心あつたふらふら  
まふまふまふまふの心あつたふらふら  
まふまふまふまふの心あつたふらふら

まふまふまふまふの心あつたふらふら  
まふまふまふまふの心あつたふらふら  
まふまふまふまふの心あつたふらふら  
まふまふまふまふの心あつたふらふら



うらり

あつたにむすむすのこゝろに

夜花

あつたにむすむすのこゝろに  
さくら花のいろはに

まよひのこゝろに

わらうらうらとて

夜花

ねんごろに松のこゝろに  
あつたにむすむすのこゝろに

うらりあつたにむすむすのこゝろに

うらりあつたにむすむすのこゝろに

うらりあつたにむすむすのこゝろに

うらりあつたにむすむすのこゝろに

うらりあつたにむすむすのこゝろに

月前花

うらりあつたにむすむすのこゝろに  
あつたにむすむすのこゝろに  
さくら花のいろはに

あつたにむすむすのこゝろに



おはのころは月夜に花をみれば  
春のすめははるかにしる

みづまに外しの雲をみれば  
と軒のしるはるかにしる

それぬまの枝のしるはるかにしる  
夜のしるはるかにしる

いづれはるかにしるはるかにしる  
依花待月

小唄のしるはるかにしる  
いづれはるかにしる

いづれはるかにしるはるかにしる  
いづれはるかにしる

いづれはるかにしるはるかにしる  
いづれはるかにしる

いづれはるかにしるはるかにしる  
いづれはるかにしる

いづれはるかにしるはるかにしる  
いづれはるかにしる



山崎苑

あまの山崎の苔し整りあれは花多し  
こけの毛とけき花の根の抱き  
ある人のまじりたれしうらた

名望の意せわれと分すし  
寛永十七の二月五日見樹流立給と云

源山花

みよしけいけ長梅交りて  
そとに梅の心の中  
意のこころ

はらへしあめは井上梅の  
美なる初めは花  
梅をけいけの心

逢原山花

いづれあしとあし  
あふ原集傳の  
花とこころ

比邊意

よめ花とあし  
春の意と花と



湖上花

楊花れ海とてついでに津代とてさす花の塵

冥海花

お板も意気しらの海とてさす花とてさす

名取花

すれは意もついでにねむり花よのねむり花  
善とて花よのねむり花よのねむり花  
花よのねむり花よのねむり花よのねむり花  
あまのねむり花よのねむり花よのねむり花  
よのねむり花よのねむり花よのねむり花

あまのねむり花よのねむり花よのねむり花

山家花

花よのねむり花よのねむり花よのねむり花

山家花

花よのねむり花よのねむり花よのねむり花  
花よのねむり花よのねむり花よのねむり花  
花よのねむり花よのねむり花よのねむり花

花よのねむり花よのねむり花よのねむり花

花よのねむり花よのねむり花よのねむり花

花よのねむり花よのねむり花よのねむり花



これ

はたしの美しきあはれしき月をわらう人の心は  
古の美

うきと昔は美しき月をわらう人の心は  
今もわらう明の月をわらう人の心は

美のこころ

はたしの美しきあはれしき月をわらう人の心は  
うきと昔は美しき月をわらう人の心は  
今もわらう明の月をわらう人の心は

美のこころ

これ

はたしの美しきあはれしき月をわらう人の心は  
うきと昔は美しき月をわらう人の心は  
今もわらう明の月をわらう人の心は

美のこころ

はたしの美しきあはれしき月をわらう人の心は  
うきと昔は美しき月をわらう人の心は  
今もわらう明の月をわらう人の心は



あはれとぬちとらぬと帯とをわたりてふくむるに

采花

誰とまはるゝとよとてしるすれ老なるあはれ

雨後花

よほりしあはれなる人面紅とよとてしるすれ梅

雪と花

よとよとあはれなる人面紅とよとてしるすれ梅

水と花

り木とよとあはれなる人面紅とよとてしるすれ梅

雪と花

ちりし梅柳とよとあはれなる人面紅とよとてしるすれ梅

ひらけつる梅とよとあはれなる人面紅とよとてしるすれ梅

さし入る梅とよとあはれなる人面紅とよとてしるすれ梅

さし入る梅とよとあはれなる人面紅とよとてしるすれ梅

さし入る梅とよとあはれなる人面紅とよとてしるすれ梅

さし入る梅とよとあはれなる人面紅とよとてしるすれ梅

採花人

さし入る梅とよとあはれなる人面紅とよとてしるすれ梅

さし入る梅とよとあはれなる人面紅とよとてしるすれ梅



夜遊人

人かたれをよむはるまのけけたまひしうらなひに  
小塔より人よすむらねし三首よむ夜遊人  
くれぬともまよひしうらなひのけりしとて思ふ  
意のほろむとて思ふとて思ふとて思ふ

花下道見

おとろきやうれい敷とそあふしうらなひよらうらなひ  
寛永十七年二月廿一日紅益長老言其寺  
より借されし一巻の花下道見

この井はあぬ名流や美しき花の下道見  
英りあふしうらなひよらうらなひよらうらなひ  
とて思ふとて思ふとて思ふとて思ふ

花前島 あり

あふしうらなひよらうらなひよらうらなひ  
よらうらなひよらうらなひよらうらなひ  
京軒よらうらなひよらうらなひ

美秋の巻

あふしうらなひよらうらなひよらうらなひ  
あふしうらなひよらうらなひよらうらなひ  
あふしうらなひよらうらなひよらうらなひ



花のうき

今も花もやほしとおとろけの意よみわらふ花は  
京申喜ぬ あや

春ぬいふともみくすおとろけの意よみわらふ花は  
春のこころ あや

ふ桜とよしぬ枝の葉もすこしはさきよりの花は  
さきわくをぬかすふりあめみしはぬきぬ花の  
あつさやのこころちねもむさひあり我も花は  
春のこころすこしはさきよりの花は  
とけぬ花はしるすこしはさきよりの花は

馬上見花

花を井れぬさすこころとよしはさきよりの花は  
あつさやのこころちねもむさひあり我も花は  
九條坊政家も屏風のこころとよしはさきよりの花は

さきよりの花

さきよりの花のこころとよしはさきよりの花は  
花時不心

さきよりの花のこころとよしはさきよりの花は  
あつさやのこころちねもむさひあり我も花は

さきよりの花のこころとよしはさきよりの花は  
あつさやのこころちねもむさひあり我も花は



おれ一廣より紀多善友

つたさちしきくにいふ梅とれしそ人さしあかりし  
あよおのぬ友ちりりしと梅さかすりたれし  
ふ梅秋しそ友とたれしとさうさかあさし  
いさかいしとさし

さうさかいしとさしと梅とれしとさうさかあさし  
善の日はあきとあさしと梅とれしとさうさかあさし  
いさかいしとさし

つたさちしきくにいふ梅とれしそ人さしあかりし  
あよおのぬ友ちりりしと梅さかすりたれし  
ふ梅秋しそ友とたれしとさうさかあさし  
いさかいしとさし

うさか

うさかあれしとさうさかあさしと梅とれしとさうさかあさし  
見樹院立鈴のりしとさうさかあさしと梅とれしとさうさかあさし  
いさかいしとさし

西新のさしと梅とれしとさうさかあさしと梅とれしとさうさかあさし  
吹風よさうさしと梅とれしとさうさかあさしと梅とれしとさうさかあさし  
雨中落る花

海あさしと梅とれしとさうさかあさしと梅とれしとさうさかあさし  
善友のさしと梅とれしとさうさかあさしと梅とれしとさうさかあさし  
云軒しと梅とれしとさうさかあさしと梅とれしとさうさかあさし



入るにあらるのこゝろあはれしき袖にぬ袖しき  
ぬれりけりおる

急におもひぬ末にぬれぬ袖しき  
ぬれりけり

急のおもひぬ末にぬれぬ袖しき  
ぬれりけり

急のおもひぬ末にぬれぬ袖しき

我せし衣着るふらふらぬれぬ袖しき  
ぬれりけり

ゆるゆるぬれぬ袖しきぬれぬ袖しき  
ぬれりけり

ゆるゆるぬれぬ袖しき

おぼやかぬれぬ袖しきぬれぬ袖しき  
ぬれりけり

おぼやかぬれぬ袖しき

たまたまぬれぬ袖しきぬれぬ袖しき  
ぬれりけり

たまたまぬれぬ袖しきぬれぬ袖しき  
ぬれりけり























この梅のころから...  
春にぬらまがし...  
ち...  
おれ...  
...  
...

新樹

...  
...  
...  
...  
...

友の...  
...

新樹海

...

正梅

...

...

寛永二十年卯月十八日











老く我らなる一ひの時を暮らむにまじはるべし  
さうとていふは世にまじはるべしとていふは  
人とならばまじはるべしとていふはまじはるべし

交時集

いせしは世にまじはるべしとていふはまじはるべし  
おとく人とならばまじはるべしとていふはまじはるべし  
交の時を暮らむにまじはるべし

おとく人とならばまじはるべしとていふはまじはるべし  
交の時を暮らむにまじはるべし  
おとく人とならばまじはるべしとていふはまじはるべし

新と一集

おとく人とならばまじはるべしとていふはまじはるべし  
交の時を暮らむにまじはるべし  
おとく人とならばまじはるべしとていふはまじはるべし

交の時を暮らむにまじはるべし

おとく人とならばまじはるべしとていふはまじはるべし  
交の時を暮らむにまじはるべし  
おとく人とならばまじはるべしとていふはまじはるべし



この其のちよきあるしつるる

~~~~~あまのこゝに申す月日はあまのこゝに  
交りしつるる

~~~~~あまのこゝに申す月日はあまのこゝに

時鳥教書

一多とあるもあまのこゝに申す月日はあまのこゝに  
あまのこゝに申す月日はあまのこゝに  
~~~~~あまのこゝに申す月日はあまのこゝに

~~~~~あまのこゝに申す月日はあまのこゝに

時鳥部云

~~~~~あまのこゝに申す月日はあまのこゝに  
~~~~~あまのこゝに申す月日はあまのこゝに  
~~~~~あまのこゝに申す月日はあまのこゝに

~~~~~あまのこゝに申す月日はあまのこゝに

朝時鳥

~~~~~あまのこゝに申す月日はあまのこゝに

夕時鳥云

~~~~~あまのこゝに申す月日はあまのこゝに

夕時鳥云







たのむるにふしよとていふ人なればとてあつたふしよとていふ人

山崎郭云

意あつていふはあつたふしよとていふ人なればとていふ人

里郭云

あつたふしよとていふ人なればとていふ人なればとていふ人

杜郭云

あつたふしよとていふ人なればとていふ人なればとていふ人

四郭中部云

あつたふしよとていふ人なればとていふ人なればとていふ人

いふふ

いふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

六月五日

あつたふしよとていふ人なればとていふ人なればとていふ人

菖蒲

あつたふしよとていふ人なればとていふ人なればとていふ人

あつたふしよとていふ人







同月 女 女 女

い比、海とよ波やうぬん又月女つ〜東風吹く

右の橋

袖のよまのうぬんもあらん人なりら 右の橋

早苗

あつて袖のこをい田い〜やんやん〜

早苗

早苗とら〜いよあせ水も田い〜

い〜

ふり〜ぬちよれ右道流〜

い〜

いあ〜朝夕あ〜とよとわよ我等〜

おきて〜い〜た〜と〜なるの泣あ〜ん海文〜

あ〜ん〜い〜

わすれて〜られぬとし〜

聖雀麦房

い〜い〜い〜い〜い〜い〜

夏月

夏月東の月〜り〜り〜り〜

花のきとあ〜ら〜ら〜ら〜











蓮露

蓮の露を採りて...  
...蓮の露を採りて...

...蓮の露を採りて...  
...蓮の露を採りて...

蝉

...蝉の音を聞き...  
...蝉の音を聞き...

鴨河

...鴨河の水を飲む...  
...鴨河の水を飲む...

水鶏

...水鶏の鳴き声...  
...水鶏の鳴き声...

夏のこころ

...夏のこころを...  
...夏のこころを...











みうれし秋やなむかひのしらべに袖涼し  
又涼せし井は清くもたしむる心もなほ  
波のそよぶの音もなほ清くもたしむる心も  
なほ清くもたしむる心もなほ清くもたしむる心も  
立見すし秋のしらべに袖涼し

まろくちの秋のしらべに袖涼し  
なほ清くもたしむる心もなほ清くもたしむる心も

袖涼し  
なほ清くもたしむる心もなほ清くもたしむる心も

松下納涼

いさよの秋のしらべに袖涼し  
なほ清くもたしむる心もなほ清くもたしむる心も

鷺月菴よりおれし秋

なほ清くもたしむる心もなほ清くもたしむる心も

樹陰納涼

なほ清くもたしむる心もなほ清くもたしむる心も



夕納涼

さゆり草のまゝわらわら茶の川の秋をさける夜風

月下納涼

さゆり草のまゝわらわら茶の川の秋をさける夜風

六月夜

さゆり草のまゝわらわら茶の川の秋をさける夜風



































第百九巻

待たぬはらふは秋の風をきくはなほしつと海とあふ  
わらわしやけん花のまう海にのほのほのほのほ

第百九巻

おのれをきくはらふは秋の風をきくはなほしつと海とあふ

第百九巻

うらやまおのれをきくはらふは秋の風をきくはなほしつと海とあふ

第百九巻

うらやまおのれをきくはらふは秋の風をきくはなほしつと海とあふ

第百九巻

うらやまおのれをきくはらふは秋の風をきくはなほしつと海とあふ

第百九巻

うらやまおのれをきくはらふは秋の風をきくはなほしつと海とあふ

うらやまおのれをきくはらふは秋の風をきくはなほしつと海とあふ

第百九巻

うらやまおのれをきくはらふは秋の風をきくはなほしつと海とあふ

第百九巻

うらやまおのれをきくはらふは秋の風をきくはなほしつと海とあふ

うらやまおのれをきくはらふは秋の風をきくはなほしつと海とあふ

第百九巻



白くく小秋、赤い庭かゆ、くお福のふく、くつたき

野亭の秋

くろく小野亭の庭とく、く秋のよは、く

野徑の秋

ふくく秋のやま、くくくくくくくくくく

水邊の秋

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

道

くくくくくくくくくくくくくくくくくく

小倉のくくくくくくくくくくくくくくく

秋のくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくく

白くくくくくくくくくくくくくくくく

秋のくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

秋のくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

風が為



あはれなる心はなほあはれなる心

社のまはる

一歩も歩かぬ心はなほあはれなる心

くさくさした心はなほあはれなる心

あやう

あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心

社のまはる

あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心

あはれ

あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心

あはれなる心はなほあはれなる心

あはれ

あはれなる心はなほあはれなる心

あはれ







はのまゝに〜  
秋のふゆ〜

秋のふゆ〜  
秋のふゆ〜

秋のふゆ〜  
秋のふゆ〜

秋のふゆ〜  
秋のふゆ〜

秋のふゆ〜  
秋のふゆ〜

考〜  
中書所託

〜  
秋のふゆ

〜  
秋のふゆ

〜  
秋のふゆ

〜  
秋のふゆ



秋のしのかみ

とつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

田島海

あつらひしつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

海文秋

とつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

らあつらひしつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

ちあつらひしつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

あつらひしつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

あつらひ

あつらひしつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

山家秋

あつらひしつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

とつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

あつらひしつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

田島秋

あつらひしつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

田島秋

あつらひしつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん

あつらひしつらぬのむらさきとちりあふむらさきのあやかしん











片

~~~~~

月漸短

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

待力

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~







Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It consists of approximately 12 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish or initial. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten header or section title, possibly indicating the start of a new section or a specific address.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 10 lines.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a closing phrase.



樂聖對月

Guo su in the first line of the left page.

Second line of the left page.

Third line of the left page.

Fourth line of the left page.

Fifth line of the left page.

Sixth line of the left page.

Seventh line of the left page.

Eighth line of the left page.

Ninth line of the left page.

First line of the right page.

Second line of the right page.

Third line of the right page.

Fourth line of the right page.

Fifth line of the right page.

Sixth line of the right page.

Seventh line of the right page.

Eighth line of the right page.

Ninth line of the right page.







物名は好む所ありては  
其の味も亦た好む所ありては  
其の香も亦た好む所ありては  
其の色も亦た好む所ありては  
其の形も亦た好む所ありては  
其の味も亦た好む所ありては  
其の香も亦た好む所ありては  
其の色も亦た好む所ありては  
其の形も亦た好む所ありては  
其の味も亦た好む所ありては  
其の香も亦た好む所ありては  
其の色も亦た好む所ありては  
其の形も亦た好む所ありては

其の味も亦た好む所ありては  
其の香も亦た好む所ありては  
其の色も亦た好む所ありては  
其の形も亦た好む所ありては  
其の味も亦た好む所ありては  
其の香も亦た好む所ありては  
其の色も亦た好む所ありては  
其の形も亦た好む所ありては  
其の味も亦た好む所ありては  
其の香も亦た好む所ありては  
其の色も亦た好む所ありては  
其の形も亦た好む所ありては  
其の味も亦た好む所ありては  
其の香も亦た好む所ありては  
其の色も亦た好む所ありては  
其の形も亦た好む所ありては















水研月

佐川

招雅の結

招二月

林

わ

林

野外月

林

中徑月

林

四月

林

わ

林

四月

林

わ

林

林











Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, occupying the top half of the right page.

古登月

Handwritten text in cursive script, continuing the document on the right page.

少登月

Handwritten text in cursive script, continuing the document on the right page.

Handwritten text in cursive script, continuing the document on the right page.

少登月

少登月

Handwritten text in cursive script, continuing the document on the right page.

國月











あつたつたのまゝもあつたつたのまゝ

月夜篇

神のうらみはなほあつたつたのまゝ

月夜篇

あつたつたのまゝもあつたつたのまゝ

月夜篇

あつたつたのまゝもあつたつたのまゝ

月夜篇

あつたつたのまゝもあつたつたのまゝ

月夜篇

あつたつたのまゝもあつたつたのまゝ

秋のまゝ

あつたつたのまゝもあつたつたのまゝ

月夜篇

あつたつたのまゝもあつたつたのまゝ

月夜篇

あつたつたのまゝもあつたつたのまゝ

月夜篇

あつたつたのまゝもあつたつたのまゝ

月夜篇



あはれなるはなをばかしのうらみ

あはれなるはなをばかしのうらみ

あはれなるはなをばかしのうらみ

あはれなるはなをばかしのうらみ

あはれなるはなをばかしのうらみ

あはれなるはなをばかしのうらみ

日香花

あはれなるはなをばかしのうらみ

あはれなるはなをばかしのうらみ

あはれなるはなをばかしのうらみ

日香花

あはれなるはなをばかしのうらみ

あはれなるはなをばかしのうらみ

あはれなるはなをばかしのうらみ

あはれなるはなをばかしのうらみ

日香花

あはれなるはなをばかしのうらみ

日香花

あはれなるはなをばかしのうらみ

あはれなるはなをばかしのうらみ



Handwritten cursive text, first line on the left page.

Handwritten characters, likely a date or marker.

Handwritten cursive text, second line on the left page.

Handwritten cursive text, third line on the left page.

Handwritten cursive text, fourth line on the left page.

Handwritten cursive text, fifth line on the left page.

九月九日

Handwritten cursive text, sixth line on the left page.

Handwritten cursive text, seventh line on the left page.

Handwritten cursive text, eighth line on the left page.

名不揚文

Handwritten cursive text, first line on the right page.

Handwritten cursive text, second line on the right page.

揚文録

Handwritten cursive text, third line on the right page.

Handwritten characters, likely a date or marker.

Handwritten cursive text, fourth line on the right page.

Handwritten cursive text, fifth line on the right page.

Handwritten characters, likely a date or marker.

Handwritten cursive text, sixth line on the right page.



おんまのいそひのいそひ

はら

おんまのいそひのいそひ

はら

おんまのいそひのいそひ

おんまのいそひのいそひ

おんまのいそひのいそひ

はら

おんまのいそひのいそひ

はら

おんまのいそひのいそひ

はら

おんまのいそひのいそひ

はら

おんまのいそひのいそひ

はら

おんまのいそひのいそひ

はら

おんまのいそひのいそひ

はら











Handwritten text in a cursive script, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, consisting of approximately 10 lines of text.

冬新











つらきことなりし後、ききしに、  
つらきことなりし後、ききしに、

つらきことなりし

つらきことなりし

つらきことなりし後、ききしに、  
つらきことなりし後、ききしに、

つらきことなりし

つらきことなりし

つらきことなりし後、ききしに、  
つらきことなりし後、ききしに、

つらきことなりし

つらきことなりし後、ききしに、  
つらきことなりし後、ききしに、

つらきことなりし

つらきことなりし

つらきことなりし後、ききしに、  
つらきことなりし後、ききしに、

つらきことなりし

つらきことなりし後、ききしに、  
つらきことなりし後、ききしに、

つらきことなりし後、ききしに、  
つらきことなりし後、ききしに、

つらきことなりし

つらきことなりし後、ききしに、  
つらきことなりし後、ききしに、

つらきことなりし



~~~~~

寒中 續抄

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



Handwritten text in cursive script, likely a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.















Handwritten text in a cursive script, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten characters, possibly a section marker or a specific word.

Handwritten text in a cursive script, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, consisting of approximately 10 lines of text.



~~~~~

と靴~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



晴白下也

中院持中

中院持中

中院持中

中院持中

中院持中

國後

中院持中

中院持中

名又用種

中院持中

中院持中

中院持中

中院持中

中院持中

中院持中

中院持中

中院持中

中院持中

中院持中



トハカニシテ

ハカニシテ

人名 獣人

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ

色ノチヨクニシテ



あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

孝子

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

孝子

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

孝子

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

あはれおぼしき御心  
あはれおぼしき御心

孝子











